

2023年度 事業計画書
(自 2023年9月1日 至 2024年8月31日)

目 次

●メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパンの歩み

●事業計画

I. ウィッシュ事業

1. 夢の実現
2. 広報活動
3. 会員増加及び寄付活動
4. ボランティアの養成と支援

II. イベント事業

III. 物品販売事業

IV. 不動産賃貸業

V. 法人管理

●メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパンの歩み

メイク・ア・ウィッシュは1980年にアメリカで始まりました

メイク・ア・ウィッシュが生まれたのは1980年。アリゾナ州に住むクリスという少年の夢をかなえたことが始まりでした。

7歳のクリスは、警察官になるのが夢でした。しかし、クリスは白血病にかかり、学校に行くことさえもできなくなってしまいました。この少年の話を聞いたアリゾナ州警察の警官たちは、クリスのために制服やヘルメット、バッジを用意し、彼を一日名誉警察官に任命しました。

本物そっくりの白バイに乗って駐車違反の車の取締りをしたり、ヘリコプターに乗って空からパトロールしたり、クリスはこの上なく幸せな時間を過ごすことができました。この日、クリスの夢はかなったのです。

残念ながら、この素敵なお一日からほんの数日後、安らかな顔でクリスは旅立っていきました。アリゾナ警察では、名誉警察官のための葬儀を執り行い、彼を見送ったのでした。

クリスの夢の実現に関わった人々は、クリスのように大きな夢を持ちながら難病と闘っている子どもたちが他にもたくさんいるに違いないと考えました。こうして設立されたのが、「メイク・ア・ウィッシュ」です。

メイク・ア・ウィッシュはこんな団体です

「メイク・ア・ウィッシュ(make a wish)」とは、英語で「ねがいごとをする」という意味です。

メイク・ア・ウィッシュは、難病の子どもたちの夢をかなえることを唯一の目的とした国際的非営利団体です。難病と闘う子どもたちには一人ひとり心に描いている夢があります。その夢を実現するために、準備・資金・労力等、あらゆる便宜を可能な限り提供し、夢を実現することによって子どもたちに生きる力や病気と闘う勇気をもってもらいたい—それがメイク・ア・ウィッシュの願いです。

メイク・ア・ウィッシュの国際的組織であるメイク・ア・ウィッシュ インターナショナルは、世界39ヶ国に拠点を置き共通の理念を基に活動を行っています。メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパンもその一員です。各国は、メイク・ア・ウィッシュ インターナショナルから財政的な支援を受けず、あくまで独立した支部運営を行っています。

メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパンの歩み

日本におけるメイク・ア・ウィッシュの活動は、1992年に沖縄でスタートしました。その後、1994年に事務局を東京に移し、2009年には一般財団法人になりました。現在は、全国6都市に支部を開設して活動を展開、登録ボランティアの数も500名を超え、年間200名を超える子どもの夢をかなえています。また、子どもの活動は様々なメディアでも大きく紹介されてきましたが、2016年7月から2018年6月には、公益社団法人ACジャパンの支援キャンペーンにも選ばれ、支援の輪がさらに広がっています。2017年9月16日からは公益財団法人として活動を続けています。

メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパンは1993年に「遊園地へ行きたい」という夢をかなえたことを第一歩として、その後「野生のイルカと泳ぎたい」「ウルトラマングレートと一緒に闘いたい」「世界一大きいヘラクレスオオカブトムシに触りたい」「サンタクロースと遊びたい」など、多くのすばらしい夢をかなえるお手伝いをすることができました。

これからもひとりでも多くの子どもたちの夢をかなえ、ひとりでも多くの子どもたちの笑顔に出会うために、メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパンは活動を続けてまいります。

●事業計画

I. ウィッシュ事業

ウィッシュ事業は、「難病の子どもの夢をかなえるお手伝いをする」活動全般そのもので、当団体の中核事業です。

難病の一次定義は、「命にかかわる病気・病状」であり、具体的な病名は当団体の定める病名リストに基づきます。ウィッシュチャイルドが対象になるかどうかの最終判断は、子どもの主治医が医学的見地から認定します。小児がん等、当団体の設立当時には不治の病といわれた病気も、医療技術の飛躍的な進歩により、今やその7割を超える患儿が小児がんを克服できるようになりました。しかしながら今なお多くの子どもが難病との闘いを余儀なくされています。メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパンは、対象となる全ての子どもに夢をかなえる機会を持ってもらうべく、今年度もウィッシュ事業を進めてまいります。

1. 夢の実現

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、外出を伴う夢のお手伝いが未だ難しい状況が続いていますが、昨年度は155人の子どもたちの夢をかなえることができました。今年度は200人の子どもたちの夢をかなえることを目標としています。実現見込みの夢を分類すると、以下のようになります。

()内訳

| | |
|---------------|------|
| 行きたい | 90人 |
| 国内旅行 | (85) |
| 海外旅行 | (0) |
| その他 | (5) |
| なりたい | 7人 |
| 会いたい | 20人 |
| 有名人 | (18) |
| その他 | (2) |
| 欲しい | 68人 |
| おもちゃ | (20) |
| 電気製品(PC、ゲーム等) | (18) |
| 動物 | (5) |
| パーティ | (5) |
| その他 | (20) |
| その他 | 15 |
| 合計 | 200人 |

昨年度は、夢の実現一件あたりの直接費用は約280,000円でしたが、今年度も同等の水準を見通しています。今年度においては、新型コロナウイルスの影響が続くことが予想されますが、200名の子どもたちの夢をかなえることができるように、全力を尽くしてまいります。

2. 広報活動

当団体やその活動についての認知を高めるべく、広報活動をより積極的に展開してまいります。2016年7月から2018年6月に行われたACジャパンの支援キャンペーンでは、TV・ラジオなどを媒体として全国展開され、これまで以上に多くの方々にメイク・ア・ウィッシュオブ ジャパンのことを知ってもらいきっかけになりました。今年度に関しましては、全国各地での講演活動に加え、ホームページ、Facebook、Instagramなどのソーシャルネットワークの活用をこれまで以上に積極的に推進してまいります。

3. 会員増加及び寄附活動

当財団にとっての最大の収益源は寄附金収入です。より多くの個人や企業の皆さんに財政的支援をいただくべく、積極的な広報活動や様々なイベントを通じた啓蒙活動を展開してまいります。

加えて、より寄附をしていただきやすい環境整備に取り組みます。具体的には、支援会員制度の見直し、ネットからの寄附の仕組みの改善、提携クレジットカードの会員拡大等を進めてまいります。

今年度は、会費と寄附金を合わせて100,800千円収益を計画しております。

4. ボランティア養成と支援

夢の実現はボランティアによって支えられています。ボランティアの養成については、これまで東京本部では年2回ボランティアトレーニングを開催し、各支部でも同様の取り組みを進めてまいりました。昨年度はコロナ禍の中でも感染症対策をしつつ、トレーニングを開催し、より多くのボランティアが参加する機会を設けるため、オンラインでの勉強会も開催いたしました。さらにきめ細かにボランティアの活動を支援するために、今後もフォローアップトレーニング、勉強会などを開催していきます。

また、情報共有を主な目的として、東京本部・各支部ではボランティア定例会を開催しております。

Ⅱ. イベント事業

当財団の活動をより多くの人に知っていただき、ご支援をいただきたい。そのような想いで、様々なチャリティーイベントを全国各地で開催しています。しかしながら、新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度のイベント開催につきましても、慎重に検討しなければなりません。新型コロナウイルス感染状況を見極めながら、安全を第一に企画運営してまいります。

今年度の主要イベント（予定）は、以下の通りです。

| 支部 | 名 称 | 開催月 | 参加者 |
|-----|----------------------------|----------|-------|
| 東京 | チャリティラン 金 哲彦ランニングクリニック | 2023年10月 | 100 |
| | 第2回チャリティゴルフ in 霞ヶ関カンツリー倶楽部 | 2023年11月 | 280 |
| | チャリティラグビー 3 CHEERS GAME | 2024年5月 | 300 |
| 札幌 | チャリティラン&ウォーク | 2023年9月 | 200 |
| 仙台 | チャリティ吹奏楽コンサート | 2023年12月 | 250 |
| | チャリティ駅伝大会 | 2024年6月 | 500 |
| 名古屋 | チャリティマラソン in 庄内緑地 2024 | 2024年4月 | 150 |
| 関西 | チャリティウォーク | 2024年3月 | 50 |
| 広島 | チャリティラン&ウォーク | 2023年11月 | 150 |
| 福岡 | チャリティラン&ウォーク in うみの中町 | 2023年11月 | 250 |
| | | | 2,230 |

今年度のイベント開催による収益は20,327千円を計画しております。

Ⅲ. 物品販売事業

当財団ではオリジナルグッズを作成し販売しています。今年度のカテゴリ別販売計画は以下の通りです。

物品販売事業 内訳 千円

| | 品数 | 売上 |
|------------|----|-------|
| 書籍 | 4 | 570 |
| アパレル | 10 | 1,510 |
| 文具 | 9 | 700 |
| アクセサリ | 9 | 1,000 |
| 30周年記念グッズ | 6 | 200 |
| イベント限定 | 3 | 1,000 |
| オリジナルグッズ小計 | | 4,980 |
| バザー | | 100 |
| オークション | | 500 |
| 本の印税 | | 10 |
| 物品販売事業 合計 | | 5,590 |

Ⅳ. 不動産賃貸業

当財団は2010年に支援者より遺贈を受けた不動産（アパート）を東京都渋谷区西原に保有しておりましたが、2019年4月に売却し、2019年7月に東京都千代田区九段南に新たに賃貸用不動産（ビル）を購入しました。昨年度には、当ビル4Fに東京本部事務局を移転しました。

尚、不動産賃貸事業を継続し、今年度は19,000千円の賃貸収益を計画しております。

V. 法人管理

今年度は以下の重点課題に取り組んでいく所存です。

- ・対象となる全ての子どもに夢をかなえる機会をもってもらえるようウィッシュ事業を更に強化し、同時にイベント事業、物品販売事業にも力を注ぐ
- ・メイク・ア・ウィッシュの国際組織メイク・ア・ウィッシュ インターナショナルと連携して、グローバルレベルでのファンドレイジングに取り組んでいく
- ・メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパンの公益法人としてのさらなる発展のために、機関管理やガバナンスを着実に実行していく

以上